

# 業績ハイライト

## 平成27年3月期の決算

貸出金残高は順調に増加しましたが、一方で利回りの低下により資金運用収益が減少したことや、貸倒引当金戻入益が減少したことなどから、経常収益は前事業年度比11億29百万円減少し408億71百万円となりました。

経常利益につきましては、経常収益の減少に加えて、消費税率の引き上げなどにより営業経費が増加したことなどから経常費用も増加したため、前事業年度比17億92百万円減少し56億57百万円となりました。

また、当期純利益につきましては、これらの要因に加えて、法人税等の実効税率の引き下げによる法人税等調整額の増加要因もあり、前事業年度比16億88百万円減少し32億66百万円となりました。

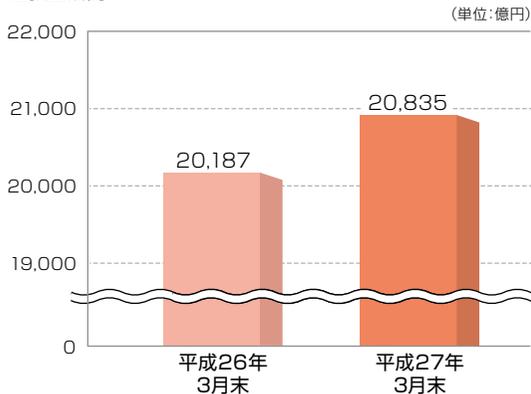
## 預金・貸出金等の状況

平成27年3月末の総預金残高は、個人預金、法人預金ともに引き続き堅調に増加したことから前年比648億円増加し2兆835億円となりました。また、預金以外の個人預かり金融資産残高は、前年比221億円増加し2,818億円となりました。

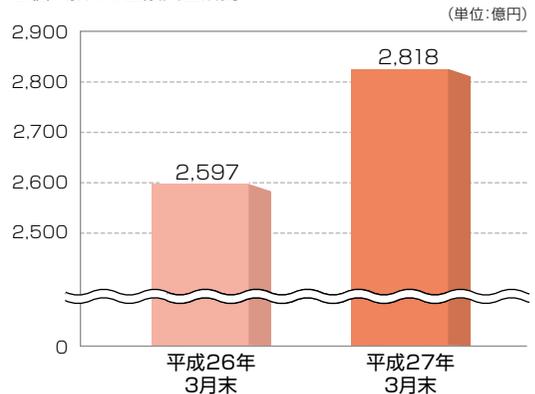
一方、総貸出金は中小・小企業を中心とした貸出金増加策の実施により事業性貸出金が増加したことに加え、住宅ローンを中心に個人ローンが増加したことから前年比563億円増加し1兆3,450億円となりました。

(注)個人預かり金融資産残高は、投資信託、生命保険、公共債の合計であり、外貨預金は含んでおりません。なお、投資信託残高は、今回より時価に変更しています。

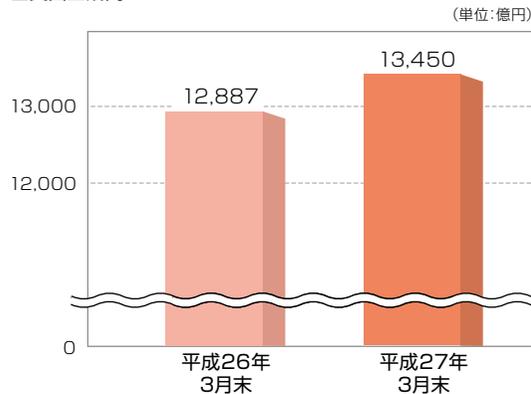
■預金残高



■個人預かり金融資産残高



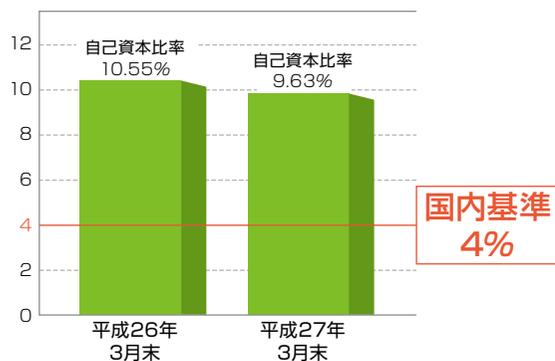
■貸出金残高



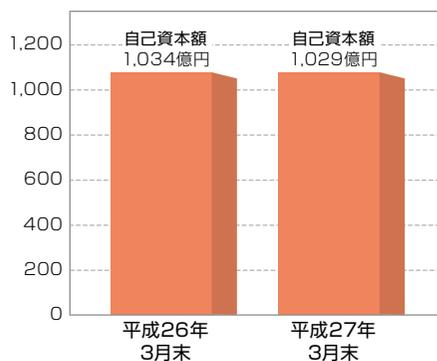
## 自己資本比率

平成27年3月末の自己資本比率(国内基準)につきましては、利益の積上げが自己資本の増加要因となりましたが、バーゼルⅢへの移行に伴う経過措置による自己資本の減少要因があり、自己資本は前年比5億円減少しました。一方リスク・アセットは貸出金の増加等により前年比879億円増加したため、前年比0.92%ポイント減少し9.63%となりました。

■自己資本比率(国内基準)



■自己資本額(国内基準)



## 不良債権の状況

債権総額中に占める金融再生法開示債権(いわゆる不良債権)比率は、平成26年3月末の3.22%が平成27年3月末には2.81%となりました。

なお、当行は部分直接償却を行っておりませんが、部分直接償却を行った場合のこの比率をみますと、平成27年3月末で2.54%(平成26年3月末では2.88%)となっております。

■平成27年3月末の不良債権の状況

